# マスターズを彩るレジェンドたち(6)

秋澄むの10月。秋の陸上シーズンを迎え、変則日程で日本選手権の第104回大会が新潟で行われ、好レ ースが繰り広げられた。だが、ほぼ同じ時期に予定されていた福井での第41回全日本マスターズ選手権は 新型コロナウイルスの流行を理由に中止を決定。地域によっては大会を開いてはいるが、国内最高のイベ ントは閉じられたままで、寂しい限り。今月号もマスターズ陸上を彩った選手を紹介する。 写真/日本マスターズ連合

## マスターズ連合の要人と 選手を兼任した 渡邉源太郎さん(大阪)

日本マスターズ陸上が旗揚げした 1980年から89年まで連合副会長、そ の後、顧問、名誉副会長などを歴任し た渡邉源太郎さん。連合の要人だけで なく、選手としても100歳まで競技場 に立ち続けた。

渡邉さんが百寿を記念するように、 サークルへ立ったのは和歌山市での 国際・第38回全日本マスターズの砲 丸投と円盤投だ。いずれもM100クラ スでの競争相手はなく、砲丸投(3 kg) は2m73、円盤投(1kg) が5 m58をマークした。トラックの60m にもエントリーしていたが、同レース は風雨中止となり、「走りたかったの に。残念やった」と。「100歳の重み」 を披露した渡邉さんには、長年、役員 と選手の1人2役を果たしてきた功労 に対し、閉会式で特別感謝状が贈呈さ れた。

渡邉さんは"生粋のマスターズ・ア スリート"だ。マスターズ発祥の地、 和歌山マスターズが創設された1978 年から参加、初代会長に。選手として も積極的にレースに挑み、同年11月 に同マスターズが開催した第1回西日 本マスターズに61歳でM60(当時の 3A) の100m、200m、400mに出て、 いずれもトップを占めた。

100m13秒6、200m28秒4、400m 1分07秒0がそのときのタイムであ る。M60でのベストは表の通り。

和歌山マスターズの創立当時は和 歌山マスターズ陸上競技クラブと称

し、2年後に誕生した日本マスターズ は、何回か紹介した通り、日本中高齢 者陸上競技連合の名称だった。連合が 発足した1980年10月に和歌山市であ った第1回全日本中高齢者陸上にも 63歳で挑戦し、M60(3A)クラスで 100m14秒0、200m28秒7、400m 1 分08秒2、4×100mR (1走) と四 冠を達成した。

渡邉さんは京大卒、和歌山の住金化 工の副社長だった。マスターズでは世 界大会でも活躍。あるときは日本選手 団会長の織田幹雄さんを補佐する副団 長を務めた。後に和歌山から大阪へ。

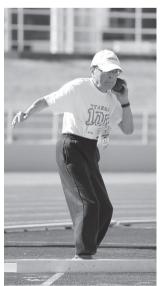
年齢が上がるに従い、「400mを自 分の年より下のタイムで走る |を自認。 『エージ・ランナー』と称して頑張り 続けた。例えば表にあるように、70 歳での400mのベストは電気計時で1 分06秒36 (66秒36)、手動計時で1

分06秒8 (66秒8)。75歳で手動の みだが1分11秒8 (71秒8)。

さらに80歳になっても電気計時1 分17秒85 (77秒85)、手動計時1分 18秒5 (78秒5) とエージ・ランナ ーを貫き通した。レース途中に無酸素 状態になるといわれる400mで、よく ぞである。日頃の努力の成果といえよ う。トラックでは2016年の第37回全 日本マスターズで、1人だけの出場だ ったが、60mを27秒89(+1.2)で走 った。99歳だった。

同大会では砲丸投2m73、2人が出 場した円盤投では5m61で2位。渡 邉さんの100歳でのベストは大阪マス ターズ競技会で走った60m25秒51、 同競技会での砲丸投の3m19、円盤投 が6m72である。

マスターズ陸上と共に歩んできた渡 邉さんは、2019年11月19日に天寿を



100歳で砲丸投のサークルに立った渡邉さん

#### ●渡邉源太郎さんのクラス別日本記録

クラス	種目	記録	年齢・樹立年
M60	100m	13秒 3	(63歳・1980年)
	200m	27秒70	(63歳・1980年)
	400m	1 分02秒 0	(64歳・1981年)
	400mH	1 分12秒45	(64歳・1981年)
M65	200m	28秒20	(66歳・1983年)
	400m	1分03秒2	(65歳・1982年)
	100mH	20秒96	(66歳・1983年)
	400mH	1 分17秒 7	(66歳・1983年)
M70	200m	29秒60 (E)	(72歳・1989年)
	400m	1 分06秒8(手)	(70歳・1987年)
		1 分06秒36 (E)	(70歳・1987年)
	300mH	54秒79(E)	(72歳・1989年)
	4 ×100mR	57秒54 (4走)	(70歳・1987年)
	4 × 400mR	5分34秒41(3走)	(72歳・1989年)
M75	400m	1 分11秒8(手)	(75歳・1993年)
	80mH	17秒8(手)	(75歳・1993年)
		18秒01 (E)	(77歳・1994年)
	300mH	58秒9(手)	(75歳・1992年)
		1 分01秒85(E)	(77歳・1994年)
	4 ×100mR	58秒97(2走)	(75歳・1993年)
	4 × 400mR	5分07秒61(4走)	(75歳・1993年)
M80	400m	1 分18秒5(手)	(80歳・1997年)
		1 分17秒85 (E)	(80歳・1998年)
	4 × 400mR	6 分00秒03	(80歳・1998年)
	(手)は手動	計時、(E)は電気計時	

全うして、天国へ旅立った。享年102 りし、58歳で1981年の第2回全日本 歳。大往生した渡邉さんは天上の楽園 で「エージ・ランナーで頑張りまっせ」 と、マスターズ陸上を楽しんでいるは ずだ。

父親を追い掛けて頑張っているの が次男の和生さん(73歳)である。 2001年に静岡で行われた第22回全日 本マスターズに54歳から参加。最後 の"親子共演"は2017年の和歌山で の第38回大会だった。当時、70歳の 和生さんはM70・200mで4位、4× 100mR (1走) は3位でメダルを獲 得した。

「おやじ (のタイムを) 抜いてやろう と頑張っていますが、種目によっては、 う~ん。これからもおやじの後を継い で」と意気込んでいる。

# 戦前、戦後をつないだ競技人 辻井五十鈴さん(兵庫)

往年の女子投てき界で鳴らした辻井 五十鈴さん (兵庫)。亡くなって何年 たっただろうか。辻井さんが砲丸投と 円盤投で名を高めていた時代はマスタ ーズだけではない。広く陸上界で存在 感を示していた。

辻井さんが兵庫第一女(現・神戸 高) 時代の1939年に出したベストの 砲丸投11m66は戦前の日本歴代2位。 円盤投35m35は同歴代6位だった。 旧制の高等女学校からお茶の水女子大 へ進学。終戦後、母校ともいうべき神 戸高の教諭として、陸上競技部の顧問 を務めた。

生徒を指導しながら、長年、選手 としてサークルへ。日本選手権にも 1950年の第34回大会から再び参加を 始め、1959年までの9年間で、1953、 56年を除き、砲丸投と円盤投の両種 目入賞が3回、砲丸投のみの入賞が4 回ある。

日本ランクも戦後の1948年から 1959年の間、砲丸投と円盤投の2種 目10傑入りが6回。砲丸投か円盤 投のみの10傑入りが5回。この間、 1956年だけは10傑入りを逃している。

この辻井さんがマスターズに仲間入

マスターズ陸上に登場、W55・砲丸 投9m69、円盤投22m20で両手に花 を。次回の全日本大会でも両種目に連 勝。W60クラスになった60歳での第 4回大会をはじめ、第5回大会を外し、 第8回大会まで砲丸投、円盤投ともに 1位。

W65クラスになっても活躍した 辻井さんは世界マスターズにも参 戦。1983年にプエルトリコのサンフ ァンであった第5回大会から出場し、 W60·砲丸投9m95、円盤投23m75 と2種目に勝った。だが、次のイタリ アのローマで行われた第6回大会では 砲丸投が2位、円盤投は3位と表彰台 には立ったが、金メダルは逃した。

その後、第7回大会では両種目とも に5位。W65クラスになった第8回 大会になると砲丸投で3位、円盤投で 2位と再び順位を上げ、ハンマー投だ けが5位だった。第9回大会では4種 目に出て、砲丸投だけが5位で、円盤 投、ハンマー投、やり投はいずれも6 位となっている。いずれにしても入賞 だけは果たした。

マスターズを除いても地元の兵庫選 手権の砲丸投には40代半ばの1970年、 第38回大会に出て10m54でタイトル を取っている。本誌発行の記録集の 1963年度版「砲丸投」の項に、11m 31で50傑中の44位に名前が掲載され ているほどだ。いかに長年にわたって



辻井さん(中央)は、戦前は選手として、戦後はマス ターズで活躍した

## ●辻井五十鈴さんのクラス別日本記録

クラス	種目	記録	年齢・樹立年	
W35	砲丸投	12m11	(38歳・1961年)	
	円盤投	37m26	(38歳・1961年)	
W40	砲丸投	11m67	(40歳・1963年)	
W45	砲丸投	10m81	(46歳・1969年)	
W55	砲丸投	10m36	(56歳・1979年)	
	円盤投	24m68	(59歳・1982年)	
W60	砲丸投	10m10	(60歳・1983年)	
	円盤投	24m82	(60歳・1983年)	
W65	砲丸投	8 m35	(67歳・1990年)	
	ハンマー投	21m18	(65歳・1989年)	
	やり投	20m20	(69歳・1992年)	

選手生活を続けたことか。

才女とあって海外での大会に出場し た後は、旅行記をつづって知人に配布 したり、陸上競技部の顧問として生徒 との絆も強かった。インターハイで五 種競技が実施されていた1964年の第 18回大会で松本学という生徒が高校 一になった。学力の高い高校にあって、 指導力も優れていた。

1969年10月に陸上部の生徒との交 流を手記にした『片目のだるま』と題 した書籍を非売品として刊行。知る人 ぞ知るで反響を呼んだ。競技人の辻井 さんを知る人は少ないはず。

## M85・4×400mRで好記録 青森チーム

2020年9月5日、青森県チームが青森マスターズ選手権大会の M85・4×400mRで7分28秒91の好記録を出した。

日本マスターズの同クラス4×400mRは実施されておらず、今 回の青森カルテットが初めて。同タイムは世界マスターズの世界記 録であるドイツ・チームの7分23秒31に5秒60と迫るもの。

今回の青森チームのオーダーは1走から敦賀又四郎さん(91歳)、 佐藤鼎(かなえ)さん(85歳)、工藤勇蔵さん(91歳)、田中博男さ ん(89歳)だった。



カルテットのうち、アンカーの田中さんについては6、7月号に横顔を紹介したほど、 知られた存在だ。だが、今回の快挙はカルテットの力が結集されたから。特に敦賀さんと 工藤さんは91歳だ。

現在、同記録は未公認だが、後日、公認記録として認められるだろう。

#### 訃報 尾崎宏副会長が死去

(公社) 日本マスターズ陸上競技連合の尾崎宏副会長が9月14日、病気療養中に東京都 内の自宅で死去、80歳。尾崎氏は日体協元理事、日本陸連元法制委員長ほか、弁護士。